

小児外科

■ スタッフ

科長		楠正人
副科長		内田恵一
医師数	常勤	2名
	併任	2名

■ 診療体制と治療実績

小児外科は、新生児から乳児、学童、思春期までの外科的治療全般（脳神経外科、心臓外科、整形外科的疾患を除く）を担当しています。

1. 小児に対する専門的外科治療

1) 小児外科専門医による外科治療

当科は三重県で唯一の日本小児外科学会認定施設であり、小児外科専門スタッフ（小児外科専門医2名、小児外科指導医2名）が、診療治療を行っています。

2) 小児に対する専門的内視鏡外科手術

日本内視鏡外科学会技術認定医（小児外科部門）が中心になって、内視鏡外科手術（腹腔鏡、胸腔鏡）を行っています。

3) 小児に対する他診療科共同での外科治療

小児科の強力なバックアップと小児専門の麻酔医による安全な麻酔の下、他診療科と共同で外科治療を行っています。

2. 診療対象疾患と外科治療実績

新生児期から学童期までの年齢も部位も多様な外科的疾患に対応するのが小児外科の特徴です。代表的疾患を列挙しますが、詳細は診療実績（過去3年）をご覧ください。

1) 新生児外科疾患

先天性消化管閉鎖（食道閉鎖症、十二指腸閉鎖症、小腸閉鎖症、鎖肛など）、新生児腹膜炎（壊死性腸炎、胎便性腹膜炎、胃破裂など）、腸回転異常症軸捻転、ヒルシュスプルング病、先天性横隔膜ヘルニア、腹壁異常（臍帯ヘルニア、腹壁破裂）、先天性固形腫瘍などの治療を行っています。

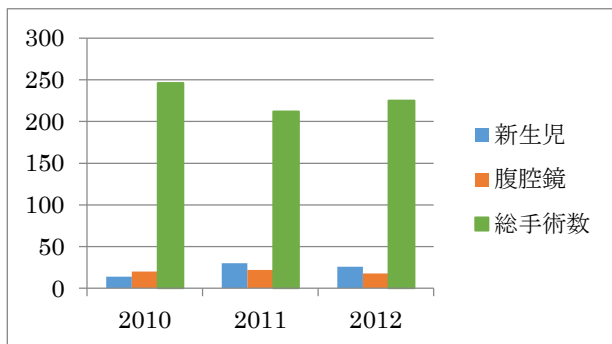
2) 乳幼児期外科疾患

肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、鼠径ヘルニア、停留精巣、胆道閉鎖症、胆道拡張症、固形腫瘍（神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、奇形種）、水腎症、便秘症などの治療を行っています。

3) 学童期外科疾患

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、虫垂炎、卵巣腫瘍などの治療を行っています。

	2010	2011	2012
食道手術	1	5	
肺切除	1	2	3
噴門機能再建	9	9	3
胃軸捻転症手術		1	1
肥厚性幽門筋切開			1
腸閉鎖手術	1	5	6
腸回転異常症手術		1	1
鎖肛根治術	5	1	3
ヒルシュスプルング病根治	3	3	5
大腸全摘（潰瘍性大腸炎）	4	2	3
虫垂切除			1
人工肛門造設	5	4	4
胃・腸切除・吻合	12	6	21
消化管穿孔手術	4	3	5
イレウス手術	2	3	
直腸筋層生検		1	
直腸脱・痔瘻・痔核・脱肛根治術	2	5	5
胆道拡張症手術・胆管空腸吻合	3	1	1
胆道閉鎖根治	2		1
肝臓移植・肝切除（ドナー除く）	5	3	
臍切除		1	
腎盂尿管形成	4	2	3
臍帯ヘルニア・腹壁破裂手術		3	2
横隔膜ヘルニア修復	3	6	2
悪性腫瘍手術（生検含む）	3	5	8
卵巣奇形腫摘出	4	2	2
縦隔・腹部・骨盤良性腫瘍摘出術	4	3	3
その他開腹・腹腔鏡手術	5	3	2
リンパ節/腫瘍生検	5	5	5
リンパ管腫局注	1	2	3
経皮的腎/肝生検	7	3	6
その他摘出術・形成術	4	2	3
頸瘻・嚢胞手術	1		1
気管切開形成・閉鎖	6	3	2
停留精巣・精巣捻転手術	6	3	12
臍・腹壁ヘルニア手術	4	3	5
鼠径ヘルニア類縁疾患手術	27	31	37
カフ付きカテーテル・ポート挿入・抜去	37	36	21
中心静脈穿刺術	12	6	2
胸・腹腔穿刺・開腹ドレナージ術	3		3
PTCD	3		
内視鏡検査	23	15	19
内視鏡下処置	17	14	17
その他	8	6	3
合計	246	213	225



専門性が評価され、平成 24 年 12 月には、日本小児外科学会東海地方会を主催いたしました。

■ 診療科の特徴

特に専門性が高い疾患・治療技術について述べます。

1. 小児炎症性腸疾患

炎症性腸疾患は最近若年齢化傾向を認め、乳幼児での発症例も報告されており、小児領域でもまれな疾患ではなくなっています。小児発症の炎症性腸疾患は重症例が多いことや病期期間が長期に渡ることなどから、治療にあたっては学校生活や就職への影響に対する配慮が必要です。当科は小児期から成人期までシームレスな治療を、多種職の力を借りながら提供している我が国でも数少ない医療機関の 1 つです。専門性が評価され、平成 24 年 2 月には、第 12 回日本小児 IBD (炎症性腸疾患) 研究会を主催しました。

2. 小児に対する内視鏡外科・小切開手術

確実な手術を担保しつつ、手術後の創跡は目立たないようにする手術アプローチが可能な場合もあり、臍の周囲のしわに沿った切開や、下腹部の下着に隠れる切開などをおく方法もあります。

小児外科領域でも腹腔鏡や胸腔鏡などの内視鏡手術の適応が徐々に広がっており、当科でも利点が大い疾患においては積極的に導入しています。これらの器械を挿入するために数カ所の創ができますが、創自体が 3-10mm 程度と非常に小さく、創が目立ちません。また、痛みが少ないことから手術後に痰が出しやすくなり、肺炎などの合併症が減少し、術後の回復も早く入院期間の短縮につながるなどのメリットがあります。現在、以下のような疾患を中心に内視鏡手術を行っております。胃食道逆流症、急性虫垂炎、炎症性腸疾患 (クローン病や潰瘍性大腸炎)、先天性横隔膜ヘルニア、腹腔内停留精巣、メッケル憩室、胃軸捻転、遊走脾、脾臓摘出、卵巣嚢腫など。

3. 小児固形腫瘍に対する外科治療

小児がん拠点病院として、頸部、胸部、胸腔内、腹腔内の、良性・悪性の固形腫瘍に対する外科治療を、小児腫瘍科や放射線科、肝胆膵・移植外科などと協同行っています。専門性が評価され、平成 24 年 9 月には、第 62 回東海小児がん研究会を主催いたしました。

4. 小児への小腸内視鏡検査

当院では従来から行われている内視鏡検査 (胃カメラや大腸カメラなど) 以外に、これまで観察困難であった小腸の検査が可能となるダブルバルーン内視鏡やカプセル内視鏡といった最新の内視鏡検査も積極的に行なっております。これらの特殊な内視鏡検査は、成人においては、近年広く普及してきていますが、小児においては、いまだ限られた施設でのみ可能な検査です。

■ 臨床研究等の実績

以下の全国的な治療指針やガイドライン作成、臨床研究に参加しています。

1. 治療指針とガイドラインの作成

1) 治療指針

厚生労働省難治性腸管障害 小児炎症性腸疾患治療指針

2) ガイドライン

- ・日本小児栄養消化器肝臓学会：ガイドライン作成検討 WG
- ・日本小児救急医学会：急性虫垂炎ガイドライン
- ・日本小児外科学会：小児期からの消化器系希少難治性疾患群の包括的調査研究とシームレスなガイドライン作成

2. 全国的多施設臨床研究

1) 日本小児外科学会関係

- ・日本におけるリンパ管腫患者 (特に重症患者の長期経過) の実態調査及び治療指針の作成
- ・新生児横隔膜ヘルニアの重症度別治療指針作成に関する研究

- ・小腸機能不全の治療指針作成に関する研究

2) 日本小児栄養消化器肝臓学会

- ・小児炎症性腸疾患の発症関連・予防要因の解明
- ・IMPACT-Ⅲ日本語版 (小児炎症性腸疾患患児に特化した指標) の信頼性及び妥当性の検討
- ・小児炎症性腸疾患に対する最新治療調査研究
- ・小児炎症性腸疾患のレジストリ構築と実態調査研究